

## 討議資料

上関原発を建てさせない県民大集会 2017 宇部実行委員会  
共同代表 浜野 勝

### I 原発を止めた地域の力 豊北町（下関市豊北町） 訪問の記録 2017年2月

昨年にひきつづき、今年も豊北町を訪問しました。

たたかひの体験を聞くほどに「海は宝 海は命」と生活をかけたたたかひが今も生きていていると思ひました。

豊北の人々から上関町の35年のたたかひに「上関の人のがんばりは私たちの想像できない辛いことがあったのではないかと思う。がんばってください」と述べられ、豊北から上関へと引き継がれていひます。

#### 60代（女性）

原発の時ひ寒い時期で、当時子どもがこまかったので、子どもをおんぶして役場へ行ったり、川棚の方までお願いにまわった。「お前たちは何か」と怒鳴られたり、追っかけられたり逃げたりしたこともあった。

神田岬の原発をつくる場所はガゼ（うに）が取れた。ヤズ網をつけたり、ナマコをとったりした。海を守ったからこそと思う。原発を作る道路は途中でやりっぱなしになり、今は藪になっている。

今は子どもがあとをつぎ漁師になっている。

原発で金をもろうても一時のこと。

島根に住む妹が「原発の温排水でアワビが大きくなり食べられない・売れない」と言っている。

《メッセージ》

上関に原発ができたらあの辺はダメになる。海がなかったら何もできない。海があったから生活できる。漁師一本の生活だから海がなければ地元をさらないといけん。よそに行つて働かざるをえない。上関には美しい自然があり、特別な生き物もすんでいる。大事にしなくてはと思う。原発反対の頃、おばちゃんたちががんばつてあとにつないでくれた。子どもたちのためにと一生懸命がんばった。35年がんばつておられることに頭が下がります。頑張ることが大切です。

#### 70代（女性）

お寺が集会場所に使われ、原発の説明会（根回して原発は受け入れるとの読みがあり）地元の有力者が「すでに原発の建設は認めたかのような」話を持ち出す。（寺は大きく200人~300人集合できる。）

ある漁師が「絶対反対、海は守る」と反対の声を上げ、その後反対の動きは強まり、原発推進、あいまいな態度を取る連中は自治会や組合役員から降ろされた。「お金をもろうても海がなくなれば困る」「原発をつくらせたら孫たちにいけん」からと漁師が先頭にたった。

今は幸せなことに皆、沖に出れる。

町長を説得するときは町役場に行き、真冬雪の降るなか重ね着をし、その上にハンテンを着て雪の降る中で座り込んだ。

婦人部は皆ひとつになつて豊田町豊浦町、豊北町の陸側田耕（たすき）まで手弁当で歩いてまわった。

《メッセージ》

「原発は破れる。いつか破れる時期が来る」と言っていた。今でもサザエ、アワビ、ブリなどとれる。金は使えばなくなる。海はなくならない。海は宝です。上関の人々のがんばり、私たちにには想像できないつらいことがあったのではと思います。頑張つてもらひたい。次の世代に海を渡してほしい。自分たちの海を守つてほしい。

#### 70代（女性）

上部の方は押さえたと思つて原発を出して来たが、下部の方は「何もきていない」と下から皆んな

がたちあがった。下からやらないとだめです。

主人は毎日出かけるので私は店のきりもり、年寄りの介護で手一杯、当時は往診に来られていた医師から「原発は絶対受け入れてはいけんよ」と言われ資料を提供していただいたりした。

福島原発事故が起きて「あのとき反対しておいてよかったね」という声を多く聞いた。

## 70代（男性）

豊北では5年先には石油がなくなると言った話もあった。あれから30年以上たった。

大阪の久米先生が来て「原発はダメ」温排水のことなどを教えてもらった。温排水は一部の漁場の生態系を崩すということが頭にインプットされた。中電は、ここに原発を4基つくる予定だった。そして、油谷湾に大きな港をつくらうとしていた。適地ということで中電はなかなか手放そうとしなかった。私らは町長が「原発はつくらん」という印を押すまで粘った。

ここは漁業がなりたつ。今でもサザエ網で毎年とれる。この一帯はすごい。

響灘は、ひじきの里ともいわれ、これを餌にサザエ、アワビがとれ、どこから湧いてくるのかと思うほどです。

沖には汐まきがあり、カルストで出来た断層がありブリなどとれます。

補償金をもろうても、40年たてば食いつぶしてしまう。海を壊したらろくなことはない。海は宝、海は命と思う。

上関原発は瀬戸内をだめにする。

ある日、漁港で写真を撮っている人がいた。旅行中の福島県の校長先生だった。豊北原発を止めたことを話すと「原発をつくらなくて正解だったね、飯舘村など住めませんよ。福島に戻り豊北の話をしませぬ。」と語っていました。

《メッセージ》 30キロ圏といえば岩国から周南まで入る。上関町のまわりの自治体で上関原発反対の運動をつくるのが大事になっている。川内、玄海原発でもまわりの市長や町長が反対している。鹿児島、新潟知事選を見てもわかる。

## II 賛同人依頼のなかで 自民党のある実力者の本音

### 本心（ある会話）

2017年1月某日 宇部市内で賛同人のお願いをして歩いているときのできごと  
家を訪ねて3. 25 県民集会の取り組みを話すと、いきなり

相手から「わしはねえ、自民党员じゃよ、原発に賛成なんよ。原発がとまって電気代が高くなっては困るからね。資源の少ない日本では、原発が必要なんよ」と言い出され、以下の会話になった。

浜野 「私らはただ、泳いで育った海を放射能で汚して孫や子に渡したくないだけのことやからのう。頼むよ。原発賛成と言うのは、あんたの本心ではないやろ。あんたほどの人が、本心から思うっておるとは思えん」

（しばらく沈黙）

相手 「・・・福島があったからのう・・・」

浜野 「県民集会にはお金がいる。一口1000円じゃけれど物心両面からの支援をお願いしたいんよ」

（しばらく沈黙）

相手 「・・・ お〜い、かあちゃん、ちょっと1000円出してくれやあ」